

2022年

## 北海道地方 8月の天候

2022年9月5日  
札幌管区気象台 気象防災部  
地球環境・海洋課

## 概況

— 低気圧や前線の影響により、太平洋側で記録的な多雨 —

8月は低気圧や前線、湿った空気の影響を受けやすかったため、月降水量はかなり多かった。特に太平洋側の月降水量の平年比は、1946年の統計開始以降、多い方から第1位だった。

**北海道地方：**月平均気温は平年並、月降水量はかなり多く、月間日照時間は平年並だった。

日本海側：月平均気温は平年並、月降水量はかなり多く、月間日照時間は少なかった。

オホーツク海側：月平均気温は高く、月降水量は多く、月間日照時間は平年並だった。

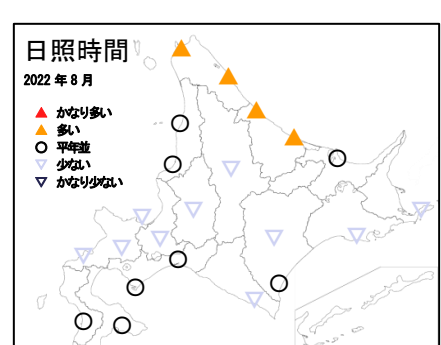
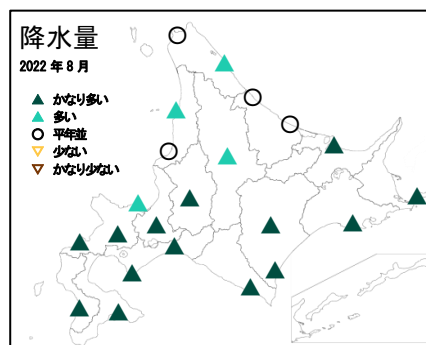
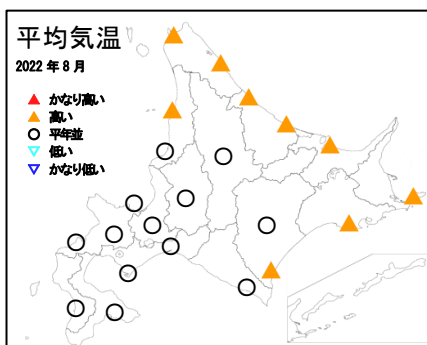
太平洋側：月平均気温は平年並、月降水量はかなり多く、月間日照時間は少なかった。

**上旬：**低気圧や前線、湿った空気の影響を受けやすかったため曇りや雨の日が多く、8日は遠別で観測史上第1位となる日降水量219.0mmを観測するなど、記録的な大雨となった所もあった。太平洋側の日照時間の平年比は、1961年の統計開始以降、少ない方から第1位だった。

**中旬：**高気圧に覆われて晴れた日もあったが、低気圧や前線、湿った空気の影響を受けやすかったため雨の降った日が多かった。特に16日には今金で観測史上第2位となる日降水量174.0mmを観測するなど、記録的な大雨となった所もあった。太平洋側の降水量の平年比は、1946年の統計開始以降、多い方から第2位だった。

**下旬：**天気は数日の周期で変わり、低気圧や前線の影響で雨が降った日もあったが、高気圧に覆われて晴れた日もあった。

## 階級分布図



## 季節予報で用いる予報区分



## 月の統計値(地域平均)

	平均気温		降水量		日照時間	
	平年差(°C)	階級	平年比(%)	階級	平年比(%)	階級
北海道地方	+0.8	0	177	++	95	0
日本海側	+0.5	0	162	++	94	-
オホーツク海側	+1.4	+	125	+	113	0
太平洋側	+0.8	0	223	++	86	-

## 旬の統計値(地域平均)

上旬	平均気温		降水量		日照時間	
	平年差(°C)	階級	平年比(%)	階級	平年比(%)	階級
北海道地方	+0.4	0	234	++	69	-
日本海側	+0.6	0	232	++	83	-
オホーツク海側	+0.8	0	189	+	104	0
太平洋側	0.0	0	260	++	35	--

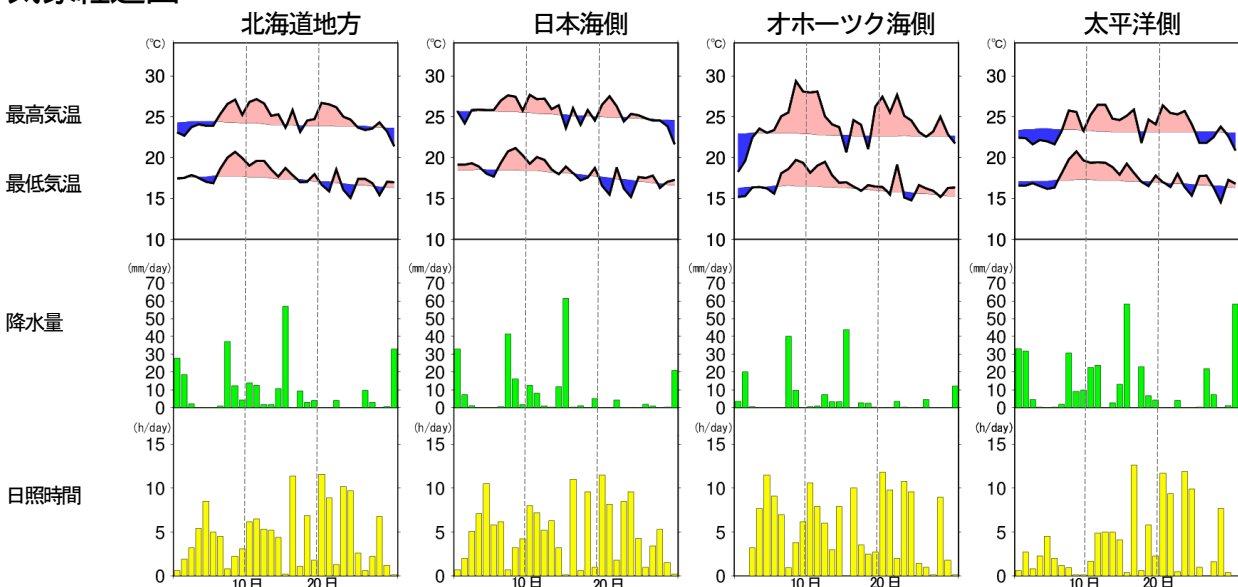
中旬	平均気温		降水量		日照時間	
	平年差(°C)	階級	平年比(%)	階級	平年比(%)	階級
北海道地方	+1.3	+	224	++	114	0
日本海側	+0.7	0	208	++	106	0
オホーツク海側	+1.8	+	148	+	131	+
太平洋側	+1.7	+	283	++	115	+

下旬	平均気温		降水量		日照時間	
	平年差(°C)	階級	平年比(%)	階級	平年比(%)	階級
北海道地方	+0.6	+	88	0	102	0
日本海側	+0.2	0	56	-	95	0
オホーツク海側	+1.5	+	48	-	105	0
太平洋側	+0.6	+	148	+	109	+

注)・数値は、地域内の气象台等(日本海側10地点、オホーツク海側4地点、太平洋側8地点で北海道地方全体で22地点)の観測値の平年差または平年比の平均を示す。階級の++は平年よりかなり高い(多い)、+は平年より高い(多い)、0は平年並、-は平年より低い(少ない)、--は平年よりかなり低い(少ない)を示す。

・「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の階級は、1991~2020年における30年間の観測値をもとに、これらが等しい割合で各階級に振り分けられる(各階級が10個ずつになる)ように決めている。また、値が1991~2020年の観測値の下位または上位10%に相当する場合には、「かなり低い(少ない)」「かなり高い(多い)」と表現する。

## 気象経過図



## 月の統計値（地点別）

官署名	平均気温			降水量			日照時間		
	本年 ℃	平年差 ℃	階級	本年 mm	平年比 %	階級	本年 h	平年比 %	階級
札幌	22.7	+0.4	0	233.0	184	++	152.6	91	-
稚内	21.3	+1.8	+	92.5	75	0	172.7	115	+
北見枝幸	20.5	+1.4	+	198.5	140	+	154.3	120	+
旭川	21.3	+0.1	0	241.0	158	+	139.6	90	-
留萌	21.5	+0.6	0	154.0	122	0	168.6	97	0
羽幌	21.8	+0.9	+	200.0	146	+	177.8	102	0
岩見沢	21.4	+0.1	0	285.5	177	++	133.3	84	-
倶知安	20.7	+0.1	0	296.0	193	++	129.7	87	-
小樽	22.3	+0.6	0	185.5	141	+	155.1	92	-
寿都	21.5	+0.3	0	297.0	228	++	144.6	89	-
網走	20.6	+1.0	+	201.5	175	++	155.6	95	0
紋別	20.8	+1.5	+	119.0	98	0	167.3	115	+
雄武	20.3	+1.5	+	116.5	87	0	166.1	120	+
釧路	19.5	+1.3	+	285.5	201	++	96.4	82	-
根室	18.7	+1.3	+	316.5	239	++	103.1	83	-
帯広	20.5	+0.2	0	265.5	188	++	104.5	83	-
広尾	19.8	+1.2	+	404.0	186	++	95.3	84	0
室蘭	21.3	+0.7	0	385.0	206	++	140.6	97	0
苫小牧	21.2	+0.8	0	454.5	230	++	114.5	94	0
浦河	20.4	+0.5	0	361.0	223	++	108.4	80	-
函館	22.4	+0.3	0	481.5	308	++	130.9	88	0
江差	22.8	+0.2	0	320.5	192	++	155.5	94	0

注) ・平年値は1991～2020年の30年間の平均値です。

- ・階級の++は平年よりかなり高い(多い)、+は平年より高い(多い)、0は平年並、-は平年より低い(少ない)、--は平年よりかなり低い(少ない)を示す。
- ・「 ) 」付きの値は欠測を含む。「 ] 」付きの値は一定の割合以上の欠測を含む。
- ・「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の階級は、1991～2020年における30年間の観測値をもとに、これらが等しい割合で各階級に振り分けられる(各階級が10個ずつになる)ように決めている。また、値が1991～2020年の観測値の下位または上位10%に相当する場合には、「かなり低い(少ない)」「かなり高い(多い)」と表現する。

## 月統計値の順位値更新一覧（第3位まで）

期間	要素	順位	地点	本年	平年差(比)	これまでの1位(年)	統計開始年
8月	月降水量(多い)	第1位	函館	481.5 mm	308 %	430.5 mm (1981)	1872
		第3位	根室	316.5 mm	239 %	500.0 mm (2016)	1879
			室蘭	385.0 mm	206 %	573.5 mm (1981)	1923
			苫小牧	454.5 mm	230 %	697.0 mm (1981)	1942
			浦河	361.0 mm	223 %	429.5 mm (1995)	1927

※データは速報値であり、後日変更される場合があります。

お問い合わせ先

札幌管区气象台 気象防災部 地球環境・海洋課  
TEL (011) 611-6174